

栃木県産学官連携経営工学講座

宇都宮大学、作新学院大学、白鷗大学は、9月5日、三大学院連携で進めている栃木県産学官連携経営工学講座（MOT：Management of Technology）開講一周年を記念する式典を宇都宮大学工学部で開催しました。この式典には、栃木県の官界、産業界および三大学の教官、学生等が多数出席し、開講一周年を祝いました。式典では、福田富一栃木県知事（代読）、栃木県の経済三団体を代表して経済同友会筆頭代表幹事の板橋敏雄氏、さらに、三大学を代表して本学学長より、それぞれ挨拶がありました。

次に、光陽電気工事代表取締役社長の飯村慎一氏が「グローバル競争社会におけるMOTの重要性」と題した基調講演を行い、これからは技術経営（MOT）に基づいたオープンイノベーションによる企業革新が必要である、と締めくくりました。

この産学官の連携講座は昨秋開講し、将来の技術経営のプロフェッショナルとして活躍できる高度な専門性と経営的センスを有する人材の育成と再教育を目指したものです。昨年10月から本年7月末までに、エッセンシャルコース（社会人38名、宇大学生4名）コース（社会人29名、宇大学生12名）を開講、募集計画を上回る受講生が学習し、本年8月3日に両コースの修了式を宇都宮大学で実施しました。本年も引き続き10月からプログラム2

年目のエッセンシャルコースと新たなアドバンストコースを開講しています。



先進国の飽食と途上国の飢餓を同時に解決



た。販売開始時にはイベントの一貫として「TFT党」を結成して、「TFTに清き1食を」と生協前で代表演説をして学生に周知しました。

TFTの仕組みに共感してメニューを選んでくれることはもちろんですが、ただ「美味しそうだから」と選んでくれた人が、途上国と先進国の食の不均衡を知るきっかけにもなればうれしいです。

メニューの考案のほかに、「菜食主義のすすめ」など勉強会も開いています。9月にはメンバー募集も兼ねて、アフリカの支援地を視察したTFT大学連合元代表の上村悠也さんを招き、TFTの活動が教育支援など現地でどう反映されているのか講演していただきました。

今後の目標は「TFTの認知度を字大で100%にすることです。」

代表：竹元志穂（国際学部2年）

TFT宇都宮 連絡先：tft-utsunomiya@hotmail.co.jp



TABLE FOR TWO(TFT)は、「二人の食卓」と直訳されますが、「先進国の飽食と途上国の飢餓を同時に解決すること」をコンセプトに活動しているNPO法人です。TFTメニュー1食につき20円がTFTを通じてアフリカの開発途上国の子どもの学校給食のために寄付されます。20円というのは、開発途上国の給食1食分の金額で、先進国で1食とることに開発途上国に1食が贈られるという仕組みです。

この活動には全国で80の大学が参加しています。TFT宇都宮は、昨年、宇大の学生たちで結成されました。活動は、まず、野菜を中心とした食材でカロリー控えめのヘルシーメニューを考えることから始めました。メンバーそれぞれがレシピを出し合って試作会を開き、候補メニューを大学生協に提示しました。調理担当者のアドバイスをいただき、一緒に試作を重ねながら学食で提供するメニューを決定しました。

今年5月に販売を開始した第一弾メニューは、「肉豆腐カレーあんかけ」と「鶏ごぼう丼」でした。その後、「きのこ入り肉野菜丼」と「ピピンハンバーグ丼」が加わりまし

災害ボランティア第4弾

「被災地みやぎを歌で応援しよう」

宇都宮大学では、災害ボランティア第4弾としてサークル混声合唱団の37名が、9月9日（金）に南三陸町で瓦礫の撤去を行い、11日（日）には「被災地みやぎを歌で応援しよう」と題し、宮城学院女子大学の講堂にて「宇都宮大学混声合唱団サマーコンサートin仙台」を行いました。

学生たちは秋晴れの中瓦礫撤去に汗を流したあと、被災者の方々の力になればと精一杯の歌声をたくさんの曲



に込めて届けてきました。

参加した学生たちは、怪我やトラブルもなく2つのボランティアをこなし、無事大学に帰ってきました。



インターカレッジ女子100メートル5位入賞

平成23年9月9日から11日にかけて、熊本県民総合運動公園陸上競技場で開催されました天皇賜盃 第80回日本学生陸上競技対校選手権大会〔インターカレッジ〕の女子100mに、本学の陸上競技部所属教育学部生涯教育課程スポーツ健康



コース4年次生 橋本奈央子さん（写真：中央）が出場し、決勝で見事5位入賞を果たしました。

平成23年度「全学FDの日」開催



全教員がFDについて考える日として、平成21年度より「全学FDの日」を開催していますが、第3回となる今年度は「内部質保証を目的とした教育改善」をテーマに、9月29日に実施しました。

午前の「全学FDシンポジウム」では、進村学長の挨拶に始まり、石田理事・副学長、廣内基盤教育センター講師、岩淵農学部教授による講演が行われ、講演後の質疑応答では予定時間を超過するなど活発な意見交換が行われました。

午後の「個別FD活動」では、午前のシンポジウムを踏まえ、各学部、学科、コース等において「教育改善の取り組みとPDCAサイクルの構築」及び「教育の内部質保証」について、今後の取り組みをも含め活発な討論が行われました。農学部では、同シンポジウムにおいて紹介した試行的取り組みをポスター発表形式で全学公開したところ、学長をはじめ各学部教員が多数来場し様々な質問等が寄せられ、非常に有意義なものとなりました。



FD=ファカルティ・ディベロプメント (Faculty Development) とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。出典：文部科学省ホームページ「大学教員のファカルティディベロプメントについて」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/06102415/004.htm

高大連携バイオ実験体験講座に130名を超える応募者！

宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センターでは、今年も高校生参加のバイオ実験体験講座を開催しました。

現在、第一線で活躍している大学の研究者と、最先端の研究成果の一端を高校生が見る・聞く・触れることで、学術と日常生活との関わりや、科学（学術）がもつ意味を理解してもらおうプログラムです。

当センターでは、遺伝子関連バイオ実験に力点を置いています。「DNAを食べたことがありますか？」に始まり実際にDNAを見て、さわることから始め、蛍光タンパク質で光る大腸菌を作る、コメのDNA鑑定などを実際に体験できます。今年も高校生と高校教員を対象にした3回の講座に合計で130名以上の応募があり大盛況でした。



<http://c-bio.mine.utsunomiya-u.ac.jp/>